第26号
2018.12.15

みいつけた！

福岡県保育協会通信

By mutual confidence and mutual aid,
Great deeds are done, and great discoveries made;
相互信頼と相互扶助にて、偉大なる行為はなされ、偉大なる発見がなされる。
―ギリシアの詩人 ホメロス

福岡地方保育事業研修大会 ---------- 2
筑後地方保育事業研究大会 ---------- 3
青年部活動報告 ---------- 4
九州保育三団体研究大会 ---------- 5
上海研修に参加して ---------- 6
公立発信 ---------- 7
新任保育士等研修会 ---------- 8
子どもの育ちを支える運動 in 九州ブロック研修会 ---------- 9
編集後記 ---------- 9

公益社団法人 福岡県保育協会
https://www.fphk.jp/ 福岡県保育協会 で 検索

第66回 福岡地方保育事業研修大会

「夢」

～みつけよう・つかもう・かなえよう～

藤重佳久先生

日の里東保育園 主任保育士　中嶋 智恵

平成30年8月19日(日)に第66回福岡地方保育事業研修大会が宗像市の宗像ユリックスで開催されました。

オープニングは市民参加型ミュージカル「むなかた三女神記」があり「神宿る島」宗像・沖ノ島と関連遺産群の世界遺産登録を新たな節目として、多くの文化を知って頂くきっかけとなるような沖ノ島の伝説と神話を元にしたストーリーでした。この素晴らしいミュージカルに私たちは大昔の世界に引き込まれていきました。私たちがいるこの宗像で日本を揺るがす歴史が刻まれていたことに驚き、今生きていることに感謝し誇りに思いました。

実践発表

「遊びの中で育まれる子どもの心と体」と題し宗像・福津地区保育協会　合計23ヶ園の2年間の研究による発表が行われました。研究課題の様々な『遊び』のテーマに沿ったアンケート調査を行い、グループ討議を繰り返し、グループでの意見や感想を発表した内容でした。一日の大半を過ごす保育の場において、豊かな遊びをどう保障していくのか、今一度学ぶ事の重要性を感じ、福岡教育大学名誉教授 横山正幸先生のご指導のもと研究がおこなわれ、遊びは子どもにとって学びであり、その遊びは自由に自発的に行われる大切な体験活動ということで、この研究からこれからの日々の保育の向上を目指し笑顔あふれるものになればよいと思います。

記念講演

演題　『奇跡の指導法』ー音楽は楽しくー

活水学院吹奏楽団音楽総監督・活水女子大学音楽学部特任教授 藤重佳久先生の講演がありました。

藤重先生は登壇されると同時にマイクを持って舞台の中央での、元気な挨拶をされました。『挨拶』は初めて会った人との交流の場で、先生から私たちに血液型、兄弟の数、ペットの有無など、様々な質問をされることで、楽しい出会いの始まりとなりました。『音楽家は勇気！決断力！大声！』が大事であるということです。

そして、『音楽はまず感じること、相手に伝える思いがないとだめ。自分の言葉で自分の思いを伝えないと誰も感動しない。うれしい、悲しい、美しい、おもしろいなど喜怒哀楽が大事である』ということ。『音楽の元となるものは周りの働きかけが子どもを育てる。強制されていると感じてはだめ、音楽は“心”である。落ち込んでいるときはいくら練習しても良い演奏は出来ない。人間は心で生きているので、心がしっかりしていると前向きになれる』

以上のように先生から教えていただいたことは、私たち保育士が子ども達に対する接し方や考え方に通ずるものがあると感じました。まずは私たち指導者が元気で楽しんで行うことが一番であり、指導をしても人によって受け取り方が違うので、みんな違うということを理解し互いを認め合えられるような関係を築いていきたいです。そして、子どもたちを認め、励まし、褒めながら指導していくことを心に留めて日々過ごして行きたいと思いました。

第67回 筑後地方保育事業研究大会

「子どもの描く未来を支える」を振り返って

菊地祐子先生

社会福祉法人大木福祉会
大莞保育園 園長　塚本 泰有

平成30年8月26日(日)、筑後市の「サザンクス筑後」において、第67回筑後地方保育事業研究大会が開催されました。今年度は、筑後中部地区保育協会が主管を務め、筑後地方の214園から約1,321名の保育関係者のご参加を頂き研究大会を開催いたしました。

筑後中部地区保育協会は、筑後市、大川市、大木町の二市一町の保育協会で構成し、全体で25園が加盟、毎年合同研修会等を開催するなど活発に交流活動を行っています。

現在、子どもの育ちや子育てをめぐる環境が、急激な社会情勢の潮流の中で大きく変化していますが、やはり、子どもにとっての最大の環境は、保護者、そして子ども達が一日のうちの長時間を過ごす保育園であり、私たち保育者です。子どもの大事な未来の夢を預かる仕事に就いている私たち保育者は、今一度保育の原点に立ち返り、「子どもの描く未来」が、より豊かなものとなるように、今何を為すべきなのか、どのようなサポートが出来るのかを、模索していかなければならないと考えます。

そこで、本大会は、保育の主役である「子ども」の理解を深めると共に“彼らの未来へ繋いでいきたい”という私たち保育者の願いを込めて「子どもの描く未来を支える」という大会主題にて開催させていただきました。

大会式典の表彰式では、89名の一般表彰の方が福岡県保育協会万田会長より、その功績を讃えられ今後の活躍を期待されました。受賞者を代表し、筑後市古川保育園の森あい先生が、お礼の言葉と力強い精進の抱負を述べられました。

記念講演は、大会主題である「子どもの描く未来を支える」と題して、東京都立小児総合医療センター子ども・家族支援部門　心理・福祉科医長である菊地祐子先生に講義をいただきました。その中から二つだけご紹介したいと思います。

一つは、「被虐待体験のある子どもへの対応」の話です。『不適切養育や虐待を受けた子どもは、「心」だけでなく「脳」に受ける影響が大きい。「脳」自体が大きなダメージを受けると認知的障害に至り、早期の問題解決に繋がらず長期化する場合が多い。その為、支援する側としては、思うような結果が出ずに落ち込んだり、燃え尽きたり、鬱になるケースが往々にしてある。こういう場合に、子ども達を支援する時の注意点として、一人で問題を抱え込んだり、頑張り過ぎたりしないこと。数人でタッグを組み、その問題の原因や背景をアセスメントし、チームの中で意見や情報を分かち合うこと。又、地域のネットワークづくりをしておくことで、自分だけでは解決できないことも、他のサポートを活用したり、利用可能な情報を提供したりすることができる。』というものでした。

二つ目は、「セルフコントロールを育てる」の話です。『子どもが主体性をもって生きていくには、セルフコントロールの芽を育ててやること。しかし、現実は、大人が子どもを強くコントロールしているケースが多く見られる。長期に渡り大人にコントロールされ続けた子どもは、大人になってから自分で自分をコントロールできなくなってしまう。私たちは、子ども自身が、ある程度自分で自分のこと決定していけるような環境づくりを整えてあげることが大事である。子どもの選択を尊重し、「折り合いのつけ方」の場面も経験させながら、「子どもの幸せのありか・自分の居場所」を見つけられるようにサポートしてあげてください。』という内容でした。

子どもや家族支援、保育現場での指導経験に裏打ちされた示唆あるお話と、子ども達への具体的なサポート方法まで分かり易く示していただき、専門的角度から子ども達の理解を深めることができました。ご参加の先生方が、この学びを通して、各保育園での子ども達の支援へと繋いでいただけることを期待いたします。

最後に、本大会を開催するに当たり、公益社団法人福岡県保育協会の役員の皆様、各地区会長様を始め、関係者の皆様のご尽力に感謝申し上げます。

第5回九州保育三団体青年部協議会研修会福岡県大会

魁！青年塾

ー集え！次代を担うリーダー達よー

大会実行委員長 ひかる保育園　白山 雄一

10月18、19日の二日間に渡って、第5回九州保育三団体青年部協議会研修会が福岡県にて開催されました。保育業界も含め社会全体が大きく変化する時代に我々青年は、チャレンジ精神を持って新しい時代を切り開くべく、共に語り合って、学び合える研修会を企画しました。

一日目は、座学塾と体験塾に分かれ、多分野の専門家を招いた研修となりました。座学塾第一部は、一般社団法人おかえり基金理事長、土井高徳氏による「ちょっとしたストレスを自分ではね返せる子の育て方」と題した講演でした。先生には愛着障害と発達障害の重なる児童たちを導く中で得られた豊富な事例と、褒め方や叱り方の構造化など実践的な手法をご紹介いただきました。ここでは児童達に「たすかったよ」「よくできたね」等の魔法の言葉のシャワーでねぎらい、共感し、安心感を培う、関係性の処方を重視しています。会場からは、私たちもストレスを抱えた子ども達にこの言葉のシャワーをかけてあげたい、という声が聞こえていました。

続いて座学塾第二部は、社会保険労務士事務所こどものそら舎代表等を務められる関山浩司氏による「次代を担うリーダーによる魅力あふれる職場環境づくり」と題した講演でした。園長先生に関する保育士アンケート結果を読みます！と、そこから出てくる生々しい保育士のココロの声に、会場は笑顔より苦笑の方が多かった気がします。他方で園長先生の声には、皆さんうんうんと頷いておられました。その後、子育てと両立可能な職場環境や時代を先駆ける働き方改革等についての内容でご講演いただきました。最後は、働きやすい環境とは安心できる環境であり、それは工夫できる！と強く訴えられ、盛会のうちに幕を閉じました。

同時刻、別会場では、参加者同士の笑い声が溢れ大いに盛り上がった体験塾が開催されました。株式会社チームビルディングスの中島昭聡氏による「どのようにすれば、職場内の心理的安全性を高めることができるか？」がテーマの研修で、体を動かしながら、人と人との壁を取り払っていくためのアイスブレイクから始まり、その後たくさんの意見を出し合っていくといった内容でした。心理的安全性とは、他者の反応に怯え羞恥心を感じることなく、自分の思いや考えを素直に表現できる環境を意味すると教えていただきました。会議の中で、いくつかの約束事を決め、誰もが自由に意見を活発に出し合える職場の大切さを体験する研修となりました。

二日目は、西南学院大学大学院教授である門田理世先生を招いた保育実践の研修でした。先生の研修は、諸外国のデータを見ながら、保育を読み解いていく内容でした。例として、アメリカでは保育の中でＡＩが子ども達とおしゃべりをしながらパズルを行うといった事例を挙げられ、子どもを取り巻く社会環境が激変していることを説明されました。日本の保育の事例として、子どもの1週間の保育時間が40時間を超えるような環境は、日本以外にないと説明がありました。保育の質の高さは、保育者と子どもの関わりの豊かさに大きく依拠し、保育の質の向上は労働環境の質の向上につながると、先生は指摘されていました。現在、働き方改革が進む中で、保育士の働く時間とともに、子どもたちの保育時間の問題や子どもたちの情緒の安定などについても、見直さなければならない課題であると感じました。

研修を締めくくる特別記念講演は、ＷＢＣ2017年侍ジャパン代表監督の小久保裕紀氏による「一瞬に生きる」という題で講演をしていただきました。このテーマの由来は、小久保氏が栃木県の山奥にあるお寺で内観を体験したことで出会い、それ以来今すべきことに自分の全神経、全身全霊を集中させるように意識することになった実体験が基になっているそうです。この体験により、後悔もなく、失敗してもその後の反省に活かしていけばいいと思えるようになったと言われていました。小久保氏は、目標設定型の野球人生を歩んでいく中で、次の目標が描けなくなった年に、後悔なく、清々しい気持ちで引退する事が出来たと振り返って言われました。保育においても、今の一瞬に全神経を集中させて生きていく事が大事なのではと考えさせられた講演でした。

最後になりましたが、多くの方にご参加いただき、無事に研修会を終えることができました。研修に携わったすべての方々に感謝申し上げます。誠に有難う御座いました！！

第5回 九州保育三団体研究大会に参加して

復旧工事中の熊本城

～すべての人が子どもと子育てに関わりをもつ社会の実現をめざして～

砂山保育園 園長　小林 哲治

はじめに

平成30年7月25日から27日にかけて、約1,500名の参加の中、第５回九州保育三団体研究大会が熊本市で開催されました。テーマは、全国共通テーマの～すべての人が子どもと子育てに関わりをもつ社会の実現をめざして～とし、平成28年4月の熊本地震被災後、2年の経過の中での開催でした。主催者である熊本市保育園連盟の江藤大会実行委員長からは、全国各地より寄せられたご厚情が何よりも心強く、なかでも九州保育三団体並びに各支部のみなさんに地震直後から温かいご支援を頂いたことと、「九州の絆」を改めて実感し、感謝の気持ちを込めた大会としたい旨の挨拶がありました。そして被災後、幾度となく襲い来る余震におびえながらも、園児の安否確認や施設の安全確保を行い、断水や給食の食材確保が困難な中保育を再開されました江藤実行委員長を始め被災地の皆さんの行動には、大変感銘いたしました。熊本地震後、平成29年7月の九州北部豪雨、平成30年6月大阪府北部地震、同年7月西日本豪雨、同年9月北海道胆振東部地震など多くの災害があり、尊い生命が奪われたり、園舎が流されてしまうなど、昨今の被害を思うと、またいつどこで起こるか分からない今日、目の前の子どもの命を守り、育ちを保障する私たちにとっても深く共感するものです。

分科会について

本研究大会では、9つの分科会がありました。私は特別分科会に参加しました。特別分科会ではテーマを「指針等の改定から保育・教育の根底を探る」として、コーディネーターに新宿せいが子ども園副園長の中山利彦氏。シンポジストに、東京大学大学院教育学研究科教授　遠藤利彦氏、熊本大学名誉教授 日本眠育推進協議会理事長 三池輝久氏、おおわだ保育園　理事長・厚生労働省保育調査専門官　馬場耕一郎氏の計4名でシンポジウムが開催されました。

遠藤氏は、「“Care”と”Education”の表裏一体性ーアタッチメントと「非認知」的な心の発達ー」をテーマに、ＯＥＣＤの報告や東京大学大学院教育学研究科教授 秋田喜代美氏との研究発表などに基づいた話がありました。今回の指針でも、「非認知能力」については重要な位置づけとされています。遠藤氏の説くアタッチメントは「脳・身体の発達」との関係性など、人が「人」として育つ時、乳児期に愛情に溢れた応答的な大人の関わりが基盤となり、安心した心もちの中で社会性が身につき、学びが始まること、そしてその学びは安定した生活や自発的な「遊び」から育っていくことを示唆されました。まさに育みたい資質能力や10の姿へと結びついていきます。人間の育ちの基盤は乳幼児期にあり、この時期に国家予算を投資することは国際的にも将来の国を担うものとして実証されていることをエビデンスを基に教示されました。

三池氏は、「生命力維持機能としての体内時計形成～子どもの脳と体の関係～」をテーマに、乳・幼児期の保育者の役割の中で最も重要なものを一つだけ挙げると、学校・社会生活に適切な体内時計を身につけさせることがうまくいくと、子育ての半分は、成功したといえると言われ「適切な体内時計形成は生涯の宝」であることを教示されました。睡眠障害やスマホの影響、脳の発達との関係等、乳幼児期の育ちに関わる大人の責務を説かれました。

馬場氏は、テーマを「指針等の改定から保育・教育の根底を探る」とし、皆さんご存知のように、0歳児保育が幼児保育の基盤となることを今回の指針で示していることを説かれました。0歳児からの養護と教育が一体となった保育の重要性をさらに確認しました。

三人のシンポジストの皆さんの共通点は、「乳児保育」の重要さと、これからの日本を担う乳幼児期の子どもたちへの投資や、質の確保をいろいろな角度から保障していくための我々大人の責務を問われた分科会であったと思います。

おわりに

今回の九州保育三団体研究大会は、最終日の「姜尚中」氏の記念講演も含め、熊本地震被災後の経験から“命の重み”や “平穏な日々の生活が幸せの基本”であること等、感謝の気持ちを逆に学ぶ研修会となりました。この気持ちを新たにもち、本大会主題である「すべての人が子どもと子育てに関わりをもつ社会の実現をめざして」を子どもの最も身近にいる私たちから発信することが、一人ひとりの子どもの幸せに繋がるものであると確信しながら、明日からの保育に邁進したいと思います。

上海の保育事情について

ゆたか保育園 園長　岩本 てるみ

福岡県を中心とした90ヶ園で構成するリスクマネジメント研究会主催の上海研修に2018年9月2日から9月5日まで参加させて頂きました。ドキドキワクワク興味津々で挑み、参加させて頂いた研修でした。

人口13億の大国がどんな街なのか、社会なのか、人はどのような生活を送っているのか、一人っ子政策の中で子ども達がどう育っているのか想像もつかず、とても興味深く思っておりました。立ち並ぶ高層ビルに整備された道路、そこにはドイツ車が往来し、また新たに建築されているビルや道路工事等々、街や人々が活気に溢れていて圧倒されるようなパワーを感じました。ガイドさんによると本当にこの20〜30年での中国の移り変わりは凄まじかったそうで、農薬問題に関しても、食の安全性という観点から生活が豊かになるにつれ、安心・安全なオーガニックという意識が高まっているとのこと。これは世界的にも同じ傾向があり、私達も次世代を担うこども達に対して衿を正さなければならないと思っています。

早速幼稚園の見学です。一園目は2グループに分かれて視察をさせていただき、私はオイスカ上海日本語幼稚園という中国勤務の日本人の子どもが通う日本人の幼稚園でした。日本にいると当たり前で忘れがちな季節の行事や衛生面で無くなりつつある行事(もちつき等)もオイスカ上海日本語幼稚園では中国にいても本当に日本を大事にし、日本を誇りに思い、日本人として立派に国際社会の中で活躍できる人間像を目指して頑張っておられるのをひしひしと感じました。

保育は日本の幼稚園教育要領、学校教育法を基に行われており、日本人として国際人として生きていく園児に、日本の伝統的文化、習慣を伝え、人間形成の基礎づくりに日々努力されているという事です。丁度見学させていただいた時は、玉入れやリレー、ダンス等、楽しそうに日本語を使って運動会の練習をしていて、中国にいる事を忘れてしまいました。

園長先生は日本人ですが、香港で育ち、小学校も日本人学校には通っていなかった為、日本へ帰国し日本の小学校へ入学した時には言葉の苦労が大きかったと話しておられました。やはり母国語を土台にして、外国語は勉強して学ぶ方が良いという事です。

これから日本はさらにグローバル化が進んでいき、2年後にはオリンピック、パラリンピックが開催され、国際社会の中で、また新たな日本をアピールすることになると思いますが、オイスカ上海日本語幼稚園の日本を想う心に負けないような、日本の心で、日々の保育を見つめ直し、日本の良さを子ども達に伝え続けていかなければならないと痛感しました。

二園目は参加者全員で「苑南実験幼稚園」の見学です。中国語では「上海宛南实验幼儿园」と書くようです。現地の方が通う公立の幼稚園は、どんな考えでどんな保育なのだろうと、とても興味のあるものでした。

丁度9月の新年度を迎えた初日でしたが、泣き声一つ聞こえず、子ども達はどこにいるのだろうと思っていると、先生に連れられ、並んで戸外の園庭に出てきました。戸外は土や砂ではなく、ゴムチップを敷き詰めたもので、緑の園庭に茶色のトラックという具合です。その園庭に外遊び用の遊び道具が園庭中に置かれ、子ども達は水鉄砲をしたり、平均台をしたり、思い思いの場所に行ってとても楽しそうに遊んでいました。この光景に子どもの様子に国境はないなあと思うと同時に、幼児教育が国単位で語られるのではなく、同じ地球上の子どもとして、皆が平等に育つ環境があればいいなあと、飢餓や貧困に苦しむ子ども達の事を想いました。また、日本の子ども達の当たり前である幸福な環境に本当に心からの感謝を持ち、その環境を活かして努力を惜しまない乳幼児教育でありたいと改めて思いながら、この度の研修を終えました。

公立
発信

川崎町立同和保育所の挑戦

川崎町立同和保育所 所長　山野 千寿子

はじめに

川崎町立同和保育所は、1973年10月1日に設立され、今年で46年目を迎えました。

無認可保育所「しおんえん」の開設から数えると50年という年月が流れました。今年も10月1日に子どもたちと「保育所のお誕生日おめでとう」と創立記念日のお祝いをしました。

保育目標

○子どもの自主性を尊重し将来を自分の力で切りひらくことができる子どもを育てる。
○保健的で安全な環境の中で探索活動を楽しみ、生活体験を広げていく。
○保育者や友だちとの信頼関係の中で意欲的に遊び、友だちとのかかわりを深め、相手の人権を尊重し、社会性を育てる。
○基本的生活習慣を養い、自律と生きる力を養う。
○差別やおかしいことに、勇気をもってたちむかう子どもに育てる。

子どもの自尊と自律を育てる保育環境

「差別による負の連鎖を断ち切る」ことが、同和保育所の課題でした。その為には、子どもが将来の目標を持って生きること、目標に向かって努力すること、それは、自分に自信を持って生きることであり、自律する力を持つことだとわかりました。そんな時に出会ったのが、「子どもの自尊と自律を育てる保育環境」の取り組みでした。そしてこの保育環境の取り組みを、同和保育所全体で行うことにしました。

具体的に保育室の環境を整えていき、一斉保育を見直しました。玄関や保育室は、季節を感じるような環境にして、毎日「おはよう」と子どもたちを温かく迎え入れるようにしています。保育室の入口にある自分のシンボルマークを「来ました」という場所に置きます。そして、荷物を片付けてから、自分で遊びを選んで遊び始めます。子どもたちが自分で遊びを選択できるように、絵本コーナー、ままごとコーナー、つみき・ブロックコーナー、絵画・制作コーナーなどを置いています。友達と協力しながら遊びます。音楽が流れると、遊んだ遊具を片付けて体操をします。朝のサークルタイムでは、今月の保育の取り組みや、今日の保育の取り組みについての話をします。みんなで歌うことや、話し合いで友達の発言を聞きます。

保育環境の取り組みにあたって、はじめは「自分の好きなことばかりして、わがままじゃないか」と心配する声がありました。しかし「ルールを守る」ことが大切であることを、子ども達は遊びのなかで、自然に身につけていきました。以前は「今から何するの?」という言葉がよく聞こえてきましたが、今ではほとんど聞くことはありません。保育士が一つひとつ指示をしなくても子どもたちは自分で行動できるようになりました。少人数で活動している子どもたちに保育士が関われる為、一人ひとりの子どもの苦手なところや、課題がはっきりわかるようになりました。

おわりに

保育環境の学習をして保育に取り組むうちに、「子どもにとっての一番の環境は保育士である」ことがわかり、保育士としての姿勢や子どもへの声がけ、自分の保育を省みました。一斉保育をやめ、子どもたち一人ひとりを大切にした保育をしようと試行錯誤を重ねていくうちに、保育士が大きな声を出すことが少なくなってきました。

子どもたちが将来を見据え、自分の夢に向かって生きていけるように、子どもたちの未来が輝かしいものとなるように、地域や学校と連携して続けていきたいと思います。

新任保育士等研修会

笑顔の花を咲かせよう

保育協会研修部員 いろどり真愛保育園長　安徳 尊博

新緑の緑に囲まれたグローバルアリーナ（宗像市）にて、6月28日〜29日、1泊2日で新任保育士等研修会が開催されました。本研修会には、県内各地より保育士、調理師、栄養士など189名の先生方が集まりました。

本研修会は、保育所保育指針や倫理綱領など根幹についての研修、保育の実践や人権などに関する研修、グループ討議、そしてキャンプファイヤー（レクリエーション）の4つの柱で構成されています。

1. 保育所保育指針、保育士倫理綱領についての学び

全国保育士会会長の上村初美先生には、「保育所保育指針」「全国保育士会倫理綱領」についてご講演いただきました。新しい保育所保育指針には、乳児・3歳未満児保育、幼児教育の積極的な位置づけ、健康及び安全の記載の見直し、「子育て支援」の章を新設、職員の資質・専門性の向上等について経験談等を交えながら講演いただきました。

また、倫理綱領では、保育をする上での基本姿勢について、また、子どもの最善の利益の尊重、チームワークと自己評価の大切さ等について講演いただきました。

上村先生より「人も木も根っこが大事です。その根っこを育てるには、良い土壌が必要です。私たち保育者はその土壌だと思います。保育者本人が心から楽しんだ経験や豊かな感性などが『専門性』と『人間性』として求められるのです。」と温かいメッセージをいただきました。

2. 保育研修についての学び

幼児教育研究家　熊丸みつ子先生には、「今を生きる子どもたちに伝えたい」と題して、ご講演いただきました。「子どもは手間暇かけて育てられる。叱って、ほめて、伝えて、関わる。泣いた数だけ、信じることを学ぶ。十泣く子は、十幸せになるんだよ。大人として、子どもを幸せにする義務がある。これからも一生懸命頑張ってくださいね。」と元気いっぱいのエールをいただきました。

若楠児童発達支援センター長　橋本武夫先生には、「親と子の共育ち」と題して、ご講演いただきました。「乳幼児期に大切な関りは、抱いて（HUG）〜語りかけて（マザリース）〜授乳をすること。その関わりこそが親子の絆を深め、愛着が形成されていく。」ということを教えていただきました。また、「テレビ、ゲームなどで遊ぶ子どもたちが増えてきているため、幼児期に戯れ、遊び、けんか等の体験をしておくことがとても大切です。その中での怪我も勲章だ」という心強いメッセージをいただきました。

福岡少年サポートセンター　少年育成指導官　堀井智帆先生には、「子どもの問題行動のとらえ方」と題してご講演いただきました。思春期を迎えた子ども達と実際に関わったエピソードを交えながら、思春期と乳幼児期はつながっていること、また、「問題行動を起こす子ども達が問題だということではなく、問題としてみる大人側にも問題があるのではないでしょうか。子ども達はいたずらをしながら、大人を振り回しながら自分の存在を確認しています。その行動の背景に秘められた思いを知ることが大切です。」と、熱いメッセージを伝えていただきました。

3. キャンプファイヤー（レクリエーション）

初日の夜には、全体交流会としてキャンプファイヤーが行われました。キャンプファイヤーでは毎年恒例のスタンツの発表が行われます。班長を中心に休憩時間をうまく利用しスタンツについてみんなで練習していました。普段、保育園で実践しているスタンツ、すぐに保育園で活用できそうなスタンツ、また他のグループも巻き込んでのスタンツ等、笑いあり、笑顔あり、とても賑やかな時間になりました。みんなのチームワークはとても素晴らしかったです。

4. グループ討議

子どもと関わる中で、保育の悩みや課題についてグループ討議を行い、自分たちの思いを伝え合いました。グループ内では、けんかの仲裁、自己主張が強い子への声掛け、叱り方などコミュニケーションに関係すること、野菜が苦手で食べない子への対応など食事に関すること、保育の導入の方法や寝かしつけなど保育実践に関係することなど、たくさんの意見が出ました。自分の胸中を伝え合い、みんな課題や悩みを抱いているということを知りました。そして、その課題に対する解決策についても自分の経験から意見を出し合いました。みんなで知恵を寄せ合うことで、たくさんの道も見つかりました。目標があるからこそ、課題が生まれてくるものだと思います。先生方が一生懸命に話し合っている姿がとても印象的でした。

あっという間の2日間。久々の再会、そして新しい出会いがありました。共に励まし合える仲間もできたのではないかと思います。先生方の素敵な笑顔で、子ども達にたくさんの笑顔の花を咲かせてほしいなと思います。研修部一同、心より応援しています。

平成30年度 公益社団法人 全国私立保育園連盟

子どもの育ちを支える運動 in 九州ブロック研修会

参加者と触れ合う大豆生田先生

宗像市 赤間保育園　出来谷 玲子

平成30年10月31日（水）福岡市博多区の九州ビル9階に於いて「子どもの育ちを支える運動」の研修会が開催されました。福岡県を中心に、九州各県より総勢130名の参加がありました。

この運動は、社会の変化や現代社会の家族の姿など、様々な視点から子どもの最善の利益を保障するために推進されているものです。「子ども・子育て支援新制度」の制定により、保育園も幼児教育の場として位置付けられ、私たち保育士には保育の質の向上が求められています。そして、その日々の保育を保護者に発信し、保護者と共に子どもたちの健やかな成長を見守り、喜び、家庭での子育てを支援していくことが大切な課題とされています。

今回の研修テーマは「保護者と共に子どもの心を育む！—保育が見えれば、保護者も変わる2018—」でした。講師の大豆生田啓友先生は、玉川大学教育学部教授であり、現在NHKのテレビやラジオなどでもご活躍の先生です。内容はとても分かりやすく、時々ユーモアも交えながらの楽しい学びの時間となりました。講演の初めに、「日本での最近のメディアの話題は、『待機児童』『保育士不足』『保育中の事故』の問題ばかりを取り上げている。もっと子育ての楽しさを広く伝えていかなければいけない。そしてその子育ての一役を担う保育士の力をもっと社会にアピールすべきだ。」と力説され、私たち保育士に温かいエールを送ってくださいました。

前半は、保育が見える手法として、*1「ドキュメンテーション」*2「ポートフォリオ」について実際に保育の中で撮られた写真を見ながら紹介していただきました。

１枚目は、木の上にいる蝉の姿を探す子どもたちの写真でした。その隣には、子どもたちの思いに寄り添い同じ高さから一緒に見上げる保育士の温かい眼差しがあり、子どもの発見した喜びを共感する様子が伝わりました。2枚目は、色水遊びを熱心に繰り返す子どもの姿から「探究心」が見える写真でした。3枚目の雨雲の写真は、「なんで、雨雲でも雨を降らせる場合と降らせない場合があるの？」という子どもの素朴な疑問を基にクラスで話し合い、掲示されたものです。その翌日には、雲の図鑑を持って来る子がいたり、インターネットで調べて報告する子がいたりと、保護者を巻き込んでの有意義な活動になったそうです。ただ写真を掲示し説明するのではなく、その瞬間の子どもたちの心の動きを伝えられるような言葉を添えることが大切だということを再認識しました。自園でも以前からクラスだよりや保育参観の際に保育内容や行事、園外活動などの写真を保護者に向け掲示し、保育の見える化を実践してきましたが、日々の保育そのものを毎日伝えることはまだ難しい課題でもあります。

後半は、少人数でグループを作り、それぞれの園の情報交換を行いました。研修会に参加された方の中には、すでに園で「ドキュメンテーション」や「ポートフォリオ」に取り組まれているところもありました。それぞれの園で、趣向を凝らし、保護者向け保育の発信を行っていらっしゃいました。また、持参した写真を使用し「ドキュメンテーション」の作成方法や、ドラマが見えるキャッチフレーズの使い方などを考えました。自園でも、ただ楽しい写真だけでなく、日々の様々な遊びや生活の中から生まれた、小さな発見や疑問を子どもたちと一緒に楽しく考えられる時間を提供していくことが必要だと感じました。そして、その保育内容を「見える化（可視化）」し、日常の遊びの中での写真をもとに子どもの育ちや保育士の関わりを保護者に発信していきたいと思いました。ありがとうございました。

*1「ドキュメンテーション」･･･園全体の活動を保護者や地域社会に向けて可視化する取り組み。メモや写真等の「記録」を、パネル等にして誰にでも見えるように掲示すること。

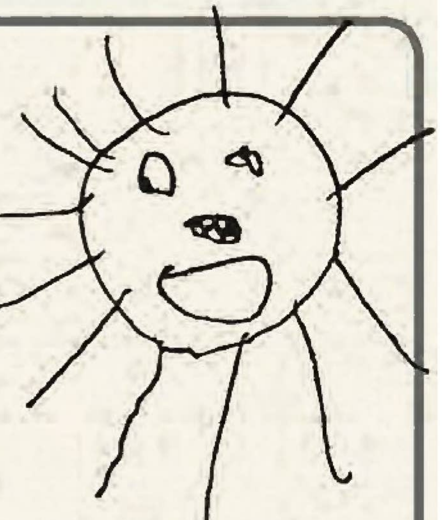
*2「ポートフォリオ」･･･子どもの作品やその過程・情報がわかる資料をファイルに入れて保存する方法。自由に閲覧したり、保護者への貸し出しを行う園もある。（研修資料引用）

【編集後記】

養育・教育の質の向上を実現するために、2017年7月に東京大学内にCedepが設立されました。Cedepとは、「東京大学大学院教育学研究科附属 発達保育実践政策学センター」の英語名称、The Center for Early Childhood Development, Education, and Policy Researchの頭文字をとったものです。Cedepでは、子どもを取り巻くあらゆる環境の質の向上を目指し、総合的な研究を推進しています。先般の熊本での九州保育三団体研究大会では、Cedepの副センター長である遠藤利彦氏による保育士研修やシンポジウムが皆さまの記憶には新しいかと思います。急ピッチで進む教育改革に、このCedepが大きな役割を果たしていくことが期待されます。ご興味のある方はぜひHPを覗いてみてください。（ http://www.cedep.p.u-tokyo.ac.jp ）

広報部 楢﨑

園および園児を さまざまなリスクから サポートします



園経営には、さまざまなリスクが伴います。
(公社)全国私立保育園連盟指定代理店である(有)ゼンポでは、
園経営はもちろんのこと、園児をとりまくリスクに関する
各種保険を取り扱っております。

ほいくのほけん

「園賠償責任保険」
「園児団体傷害保険(学校契約団体傷害保険特約付帯傷害保険)」
「特別保育事業賠償責任保険」
など、園経営におけるリスクに関する保険を
ラインナップしています。また、それらを総合的に
補償するセットプランもご用意しております。

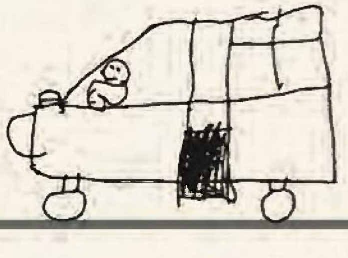
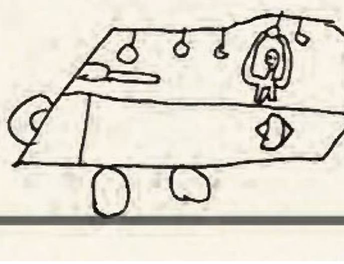
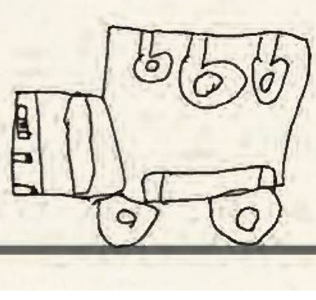
園児総合保障共済制度

園児を24時間補償する共済制度
(総合生活保険(こども総合補償))です。
団体契約による割引の適用で割安な掛金で
補償を確保することができます。

上記以外にも、「学童保育」などの、保険を取り扱っております。
ご照会は、下記連絡先にどうぞ。

〈連絡先〉 (公社)全国私立保育園連盟指定
東京海上日動火災保険株式会社代理店

有限会社ゼンポ
〒111-0051 東京都台東区蔵前4-11-10 全国保育会館内
TEL 03-3865-3881　FAX 03-3865-2806

〈引受保険会社〉
東京海上日動火災保険株式会社
担当課：公務第二部 文教公務室
TEL：03-3515-4134

このご案内は施設賠償責任保険・生産物賠償責任保険・学校契約団体傷害保険特約付帯傷害保険・総合生活保険(こども総合補償)の概要についてご紹介したものです。保険の内容は本保険制度のパンフレットをご覧ください。詳細は契約者である公益社団法人全国私立保育園連盟にお渡しする保険約款によりますが、ご不明点がありましたら、取扱代理店または保険会社までお問い合わせください。また、ご加入にあたっては、必ず「重要事項説明書」をよくお読みください。